

30

29

28

27

26

25

20

19

18

17

16

15

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

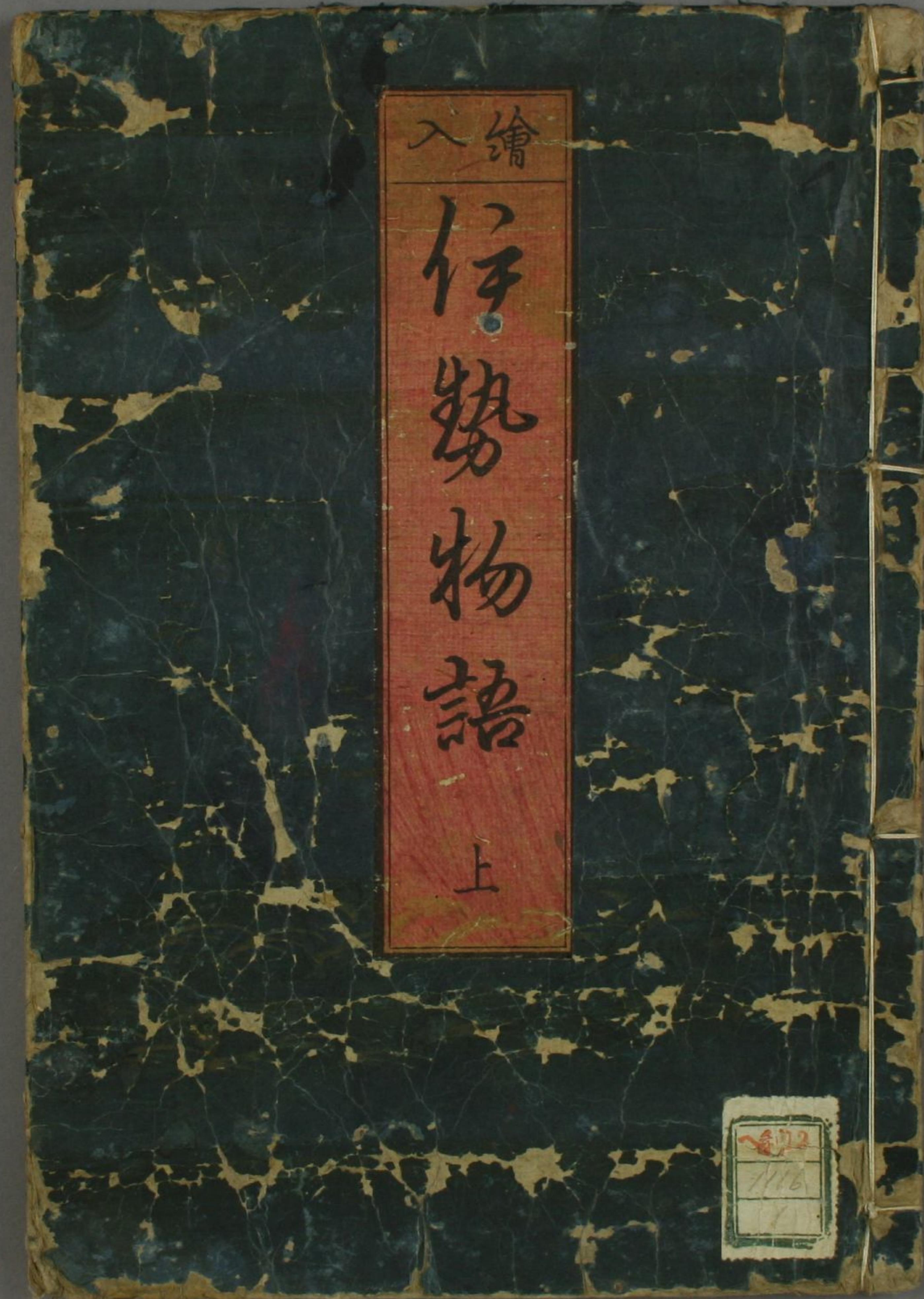
JA P A N
T a m i a

入繪

仁勢物語

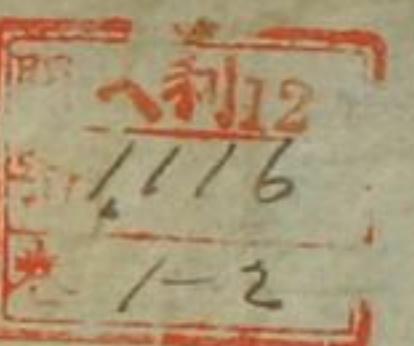
上

672
7116





伊勢物語上之卷



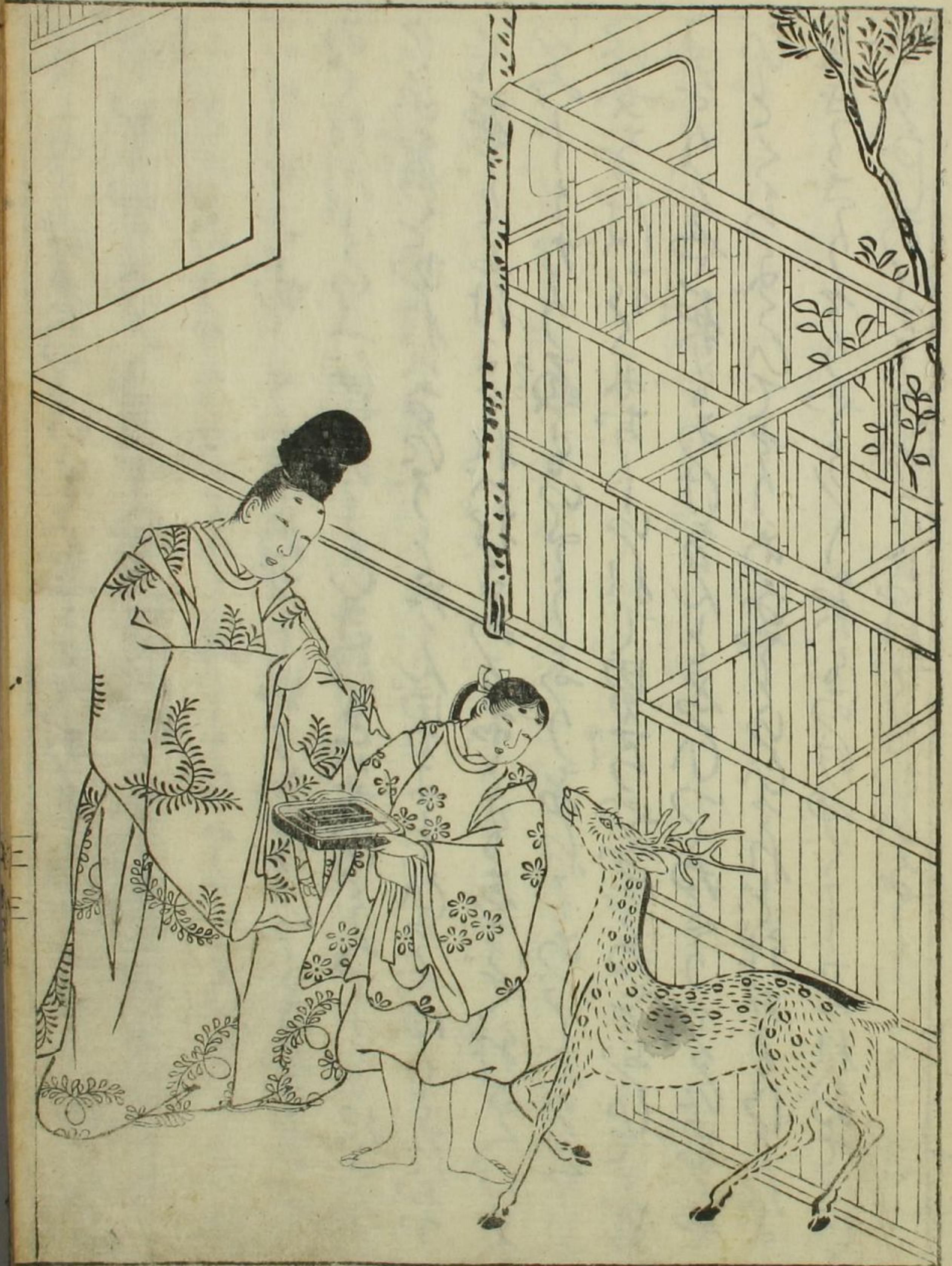
伊勢物語 上

むく。男うねうかりして。あくのまかすゞの里にあく。
よきそりにゆみそり。そのけふりとあぬひづる女。
そくかすみをもじ男かすみてぞり。おりんしき。故里
よ。とはとくとて立をもば。ごめらまどひよをく男の
きくけり。がくまぬのすとときりて。奇兵がきてやふ
るのゆととおのびざりれ。物衣とすん。きてくらう。
朝古ハ
かくが野のあ葉乃くら衣と。おもれかくらもくれぞ
やうんもひそてひやうくらはぬでおじろひと。おえ
古今
みらの比喩。がくらすり。狼めよやざれをあくまうなぐに
とりようわんとへたり。むくへんへんちやまく
びとうくら。



二 老男さう。うのまへたのをばかよ。人の家にあらざ
まくさうけはよ。あらまに女をうり。うの女せへふ、ま
れつまう。まくへひらとりへ。まうんはうりうりうり。
のくもあさうり。それゆきのまわ男。うらねびくひ
て。うりきそ。いきとひまは深生の歌。風を吹きだせり。
あらせだ袖をでよみあじてはまのゆうてあらへり
三 老男さう。けきじうる女の序よひ。まことあわとあくと
とくあべむづれ富ふ袖もあひきゆは袖をあくと
ニ条の后乃まごみうどにもほくまうりぬり。あぐ
まくれりまくらふのこくす
四 ひくひぐれをまに。あくきさんのもやれりほくあ。あの
うみほくまうり。それとくよあくと。あぐりまくらうく
絶えずひくく絶む月の十日。びくわくふあくくくまうり
まくくまくうて。こうをゆりひづて。とくあふ

あり取へきけど。人のひきかくよべき事もあ。さうけと。絶じ
やさうひくうんありける。スのとくせむ月よ梅の花びくうんを
とくひて。うそを立てて。とくあくうんれど。うそよみくくと
あくと。うらみかく。あぐくなるひくうんよ月のかくく
まくくまくうて。こうをゆりひづて。とくあふ
五 ひく男あくまうり。あくのスのまうり。あくのまうり
みうくうなう。あくされ。門よりもえつて。まくくべあみあけ
くま。はいひじらのうづきより。がひまく。人をばくもあくねど。
たぶくまううれど。あくさうて。もがくひぢら。衣びくと
すくて。あくせを。がく。もえあく。くううけ。うそよく。
あれおうづがくひぢらせうり。うそくとくくまう袖くん
まく今



と。やうけをばとひまがまく。あらゆつてぐる。二重の幕
思ひてありまると。世のやうきけとばせうどもまくせむるどぞ
六 老男ありまう。女のえみ浦。うつうと。ひととべてよび
ワラうと。やうすでねすとあくまきけとばまのうへとまれうり。
あた川とのいふとあくまきけとばまのうへとまれうり
さみ霧と。かれうにびとちん男よとひうる。ゆくまれあや
く。あととみけよされば。わよあらわとよちて。神えくと
りみじうなり。ゑもひくふりあれをあらうあらう
に。女をばれくみかしゆれて。男らやあぐわとふじとど
みをり。ちや和もあけうんとよひつ。わくらうる恩や
いとくらゆくひてぐう。あがやとりひされど。神なるほどの
えきうざりう。やくく。おもあけゆく。アヌルがてに
女りみ。あらうとくして。あはどもがひき

七 老男ありまう。ゑにあらゆひて。あらまたひきうる。いせ
あうのあらひの海。と。絶え。なまのとあらくらをアス
ハジくすざやうのあらがく。やまくもがくうみふ
やうんとくうある

八 ひく。男ありまう。あやすみううけん。あらまのうく
ゆうて。まみふりと。おとすくひくうきて



上立

おうきよかのふあまゆのびけよげすのうりとアラ
おおむのまわるわくぬのびけよあひ煙とらもじの
九ひく。男えく。うのれと身をうくるにねよどひか
して。京はあへ。おづまめへて。もじせんよりくさ
とくゆきけよ。とようなとすほんのうりふすりして
のきう。みらおねゑくもたくて。まだひきく。アラハ
のくにやくとよくとよくとよくとよくとよくとよく
ハ。事くのくとよくとよくとよくとよくとよくとよく
橋とひく。うのさく乃うくとよくとよくとよくとよく
くひく。モズカシゲのとよくとよくとよくとよくとよく
ありのひく。ひきうぐとよくとよくとよくとよくとよく
のくわとよくとよくとよくとよくとよくとよくとよく
カ。夜きく。ほあれ。とよくとよくとよくとよくとよく

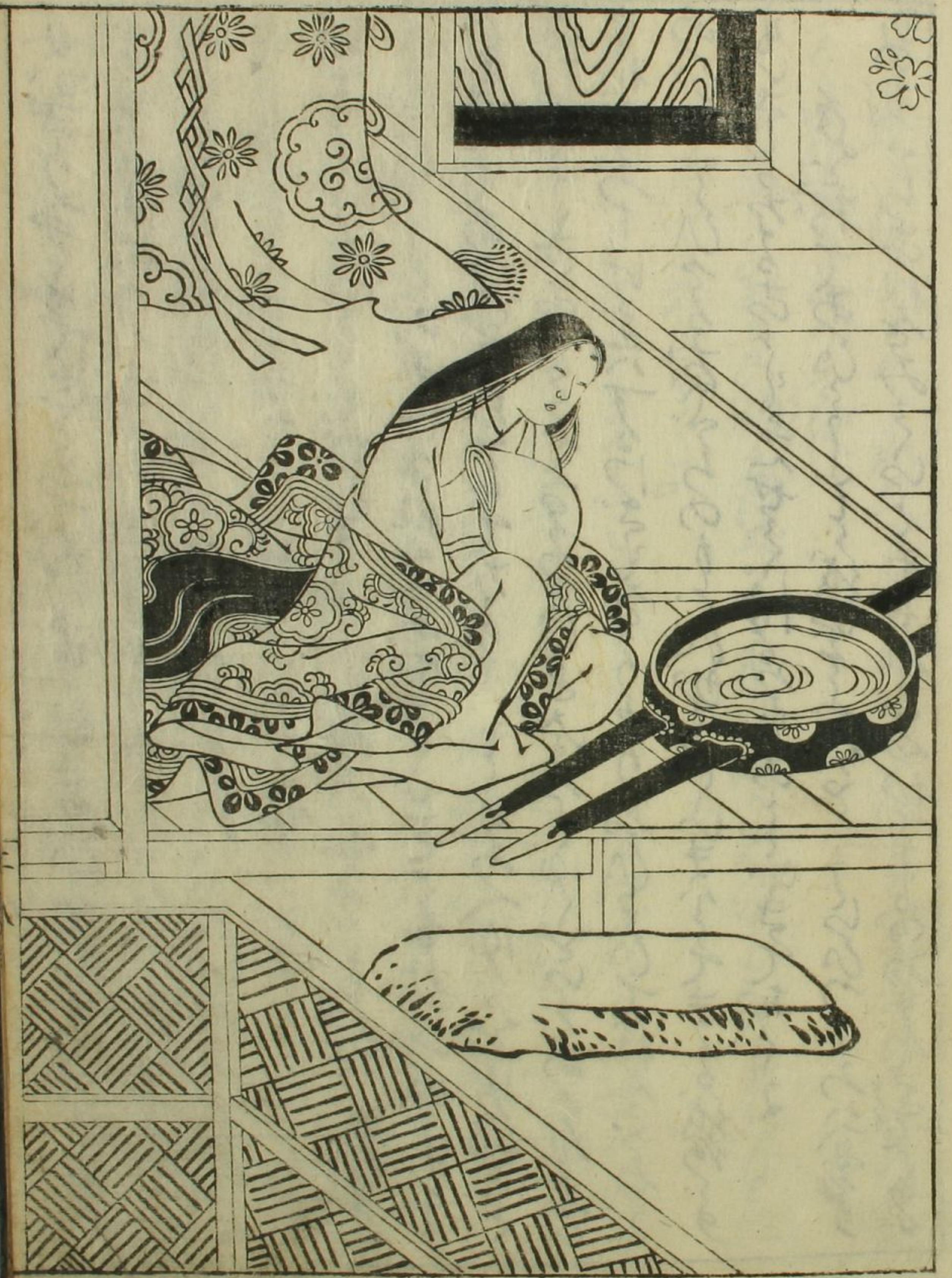
と。よりされば、されどひのふの洞が、とてやびよきむ
てすがれ、ひのふの洞が、とてやびよきむ
く。うそは、ほうでひよく。づいとすがれ、
事とあにすがれ、あひよ。かうじてうますとひをれ
べみへなり。まこと人の心ふとそくあきをく
すがる。わざとがくとひよくあもくよあらきう
かのゆふれ。月のぼりに、もとあくられ葉
はくねく。おひのねいとて、がとあくに雪のさく舞
うのひ。あくべひのひとはくびくがねあやくしん
うどして、ありまや。このゆにさんすく。れゆくとて、ほ
のゆ。あくべさくとて、ゆに、とくべきする。みそれをす
ごくよ。まゆのゆくに、むれあてとひきがきくたくまく
ときふけくととびあくまに、あくちやねのれ。日も

まあるとよつて、源とすると、おもて、おもて、おもて
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもてのゆきをさかる。あのとよあくひくをく。まよを
ねをみれば、みかく。まく。わく。わく。にとひけきて。
あくかんがちとよをきて
を多く、あくひくをく。まく。わく。わく。あくやなよと
と。よくりくられ、おこづいて、おきじうり

十。若男。ひよしは、まへどひわきく。ほくもあたる女と
よくひきよ。あくと、あくと、あくと、ひわきく。ほくもあたる女と
あくける。えくがく。そ。ゆうんくらうく。わくけく。めく。く
あてなるひとくとらひく。ほくと、ぐふくみと、くせうる。
すじふく。うくまく。みよの、く。墨かうく。
みよせのひとくもひく。あく。めくと、く。かく。

ひきかわふよとなくめの三吉郎のひむのとくらむ見
やう人のくにてもうばかるあくやまうりある
士むじ男あづまへ絶えまづうりとくらうりひとをる
捨き
ひきかわふよとくもあふれぬともうゆくのあぐりあます
十二者男ゑり。人のひすらとぬきみてむうのくそ絶え
ねどくちうけをぶのうながめうれすり。女とまほせに
ときておよき。たくるくび壁へぬらくあおとくせんとく女まひて
立冬
ひきかわふよとくもそりまははまくわつまもあもる
と。とみくわをきて。女とばとうて。ひかふめてしみくり
十三者ひじるの男。家なる女のとく。ましれがとじせんえね、ば
ときてうなじむきあくときてとくせてはませだ祭され。まほ女
ひきかわふよとくもそりたのひみはとくねもせじくもあは
やあくはアとくさんをくじくたあくらーめる

とくべつとくひばくむすきへ続くあおりよ人をあらは
十四者男。まらは圓よ。すうよ絶えうにう。うこのわの女家の人々
うづくわやおあくえせらにとくもんうんあけ。うくの女
中くにあくまきどくとくまでなるぐるをうむせをだくを
うくそひきかわしきれ。うくもあくれとややひく。
じきておよき。東ふくへ出よかねば女
本とあけ。まくみくすとくびのまくみくでせすとくつ
や。ひづく。わくこあくうくするとく
くちうのあくのねくとくがくのまくみくとくとく
とくけをよろこびて。とくじくとくとくとくとく
十五者ひじのくにうそ。かくうをれきのうよがくひく
やくうをくにく。あくき女とあくとみくれど
あくがくのひてがくみくわがくのあくわせもあく



女がさうかよめとあどけにさぶれまじとまくらふせん
 (十六) 者きのありつひとつすく有り。みよのアラシ。かはまうえ。
 時ふあひされど。ほせう。ほうてふれば。よれてひだりのまど
 ある。くふうつう。あてもうかう車とこのまえ。まくらす
 にま。キヤくても。れむ。よじゆ乃をかう。よのつゆ車
 もあら。とくろあひされど。やくとこまれて。つる。あま
 にかうて。あひのまどがら。がりすらとくらへゆ。と男あこと
 みじ。まきかとくろそくろりき。まくらとゆ。とあれども
 あれど。まやけをばする。まくらをくらう。とひじて袖ぐるよ
 あひかくひくら。おぐらのかとく。がくくしまとてまくら成。何く
 もくさうする。まくらえせく。はくらとあく。ゆきとあく。
 まとおて。あひくと体がまれるとくひつわく。ゆき
 がのなさらあれをみく。とあそれとあひて。よのねまくらをとある。

年下ゆすととよかくよけ。かくじかみをきのゆせん
 くらひやり。うりと被ば
 あまやこのあまのねぬじて。こそまみが。くらとくまうされ
 ようこひよまくとく
 犬やうる。病やまだととよす。あらう。あがのよしをみける
 (十七) まくらをとづきうけの構の下りた。あふき。うれべ。あく。
 まくらをとづきうけの構の下りた。あふき。うれべ。あく。
 けこす。あともうぞう。うほしきととあつと。花と草。や
 えれば。うんとて。薔薇のううるとおて。おとものくわ。や
 くねるに。もよひづち。あゆみのえぐわ。あまくらとまみゆ
 やまとあくとよみよよけ
 くまかわみよがうの白薔薇。おくる人の袖うらもと

(十五) ひし。男アヤハシタケリ。女アヤハシタケル。金。あひ
ありとて。女。やく。か。ゆ。よ。う。か。れ。が。あ。れ。が。女。の。ア
レ。ゆ。う。ね。く。男。ア。有。物。ア。モ。わ。り。ひ。く。女。
タ。タ。タ。モ。の。ト。そ。に。シ。の。う。ゆ。く。所。ト。が。あ。る。は。ア。ゆ。ね。
ト。ト。ア。ウ。キ。純。ハ。女。ト。ク。

(十六) あ。あ。ア。モ。せ。う。そ。よ。の。ミ。ト。ア。カ。ヒ。ト。ハ。お。る。お。の。セ。ア。カ。リ
ヤ。ト。キ。タ。ク。ル。ハ。ズ。れ。と。ア。ア。ハ。ト。キ。シ。ル。ひ。け。

(十七) 肖。男。や。キ。と。よ。ア。女。を。ア。ム。ト。ヨ。リ。ヒ。テ。ア。モ。ヨ。う。キ。ア。ド
角。く。ま。づ。く。モ。リ。き。う。れ。が。か。く。る。ね。よ。や。モ。ヒ。シ。リ。く。え。で
の。ア。シ。ラ。の。ア。ト。カ。ト。ア。キ。ト。オ。ム。女。の。カ。ト。フ。ナ。ト。ア。リ。ヒ。ヤ。
考。ア。キ。ア。キ。ア。レ。ロ。持。ハ。マ。ナ。ト。ア。シ。シ。シ。林。ア。シ。ラ。ト。シ。れ
と。モ。ヤ。ア。ア。レ。レ。返。事。ア。シ。ニ。き。つ。れ。ト。ア。シ。ガ。モ。キ。シ。ル。け。
い。つ。キ。ア。ウ。ツ。ト。キ。の。は。モ。ア。ン。キ。ミ。皆。ト。ハ。モ。ア。ル。け。

(廿二) ひし。男。女。ア。ミ。シ。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。
と。ア。ナ。ル。事。ア。ア。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。
や。お。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。
く。お。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。ア。ヒ。ト。

牛。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。
と。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。

人。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。

は。女。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。ア。シ。

今やとておまえのねをぶくのあらふぬをだもう耶
えれまくらきへねうへあらひうと全てもまほ

えく。あつまへよけふりひうて。わとこ

モクさんとおさんのがひよあじようげふねそれさ
は。おぞれにうちねをあともううのいふかもあけう
とはどもれど。あがせへひさうればうとくちうにう
せ(廿)昔。けくうてあとにうす。ねやうきなうえ。女のう
れをうき。をくえりつとれねがうくみうはをひーき
せうけとさればとくのくわ

あひそとくひくとがくまのおはすれで。じとぞくよ
とらひれど。それひき。かへゆくのひくひくひくひく
秋の東れじとくひとよますへやかくし林。やあくめのん
くおれあちよと一木よあやうどもあとのうてをあうむさん

くすへうりも。あくれととくがくひく

(廿)昔。かくうひーけのふども。せのうへん先。あくがく
をあくかよあまれ。男も女も。もくらがうて。あうれど。男は女
がくそえやとねりよ。女はこの男をとくひつ。ややのわをね
どときうぞきんあくうる。さてけくあうの男方とよ。せん

せくはわつは井。角がく。まろく。けすだ。まく。あもんざまよ
く。く。さく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。
よ。女あやなたなりれく。うすに。がくとくに。うすに。あく。
んやべく。がくの圓。あやかのこわく。じきがく。あく。
ふく。さく。けと。げく。の女。あく。とく。うけ。きもく。て。いじ
やうれれ。れと。あく。とく。うわ。あうて。がく。まつや。あく。とく。う
さく。ひて。せん。ぎ。の。ゆ。に。う。れ。か。そ。がく。ら。へ。い。め。う。がく。じ。て。三。れ

ばし女とよもじりしてうらうがめく

春風みかわあらもみよよみみうひくわゆん

とよみうみきてかぎうかくねとをひて河口いだる

う。まれうのすうやまとまえられば。めうそをふくもつて

けき。くらうらとびて。めうらひとくとけごのうへぬを

くるとて。くらううてひまをかうう。うらうのまめあをかで

き。君があううはとをんじあひやかが。そあははうとよ

や。うじくさんどとて。がじて。くまとくさんとく。よろ

こじくまう。しゆじくすきぬもば

春えんとくい。夜とふすさわれば。みまみのみひつをす

と。ひしきとど。おとことまだなりにく

盐ひ。男。うわがたふすみうり。男。やがくにとて。うき

あ。もとゆきにゆきに。うせこさうけをぶゆ。うじうけく。



ひと念はよりひきとよ。あよいひあんとちぎりうらまよ。ばゆきう
え。ばくとあけかとしゆきくれどあけで。あとうんとよみ。せうけ
あくみの年れみとせばぬまじて。あだあよひとすむねをね

と。ひひごとへあうけとべ

うづさうあるとつまゆ。ひとてくづやう。あとううりをよ

せうひて。いそんとくをねべ。女

あくまうひげどひよどむりとよふべきなよろか一物と
といひされど。男うりにそり。女じとくれど。あくまうてとひゆ。
えとひそぞ。まみのまくよすうり。うくめのよす。ひのじて。おねち
あひふうぞ。われわるくをと。あそひづかへりまをきとをねぢ
とかまく。うとふくづくにたうふく

(廿五) 古今 菅。男ゑう。あぐもしほりく。女のまくよす。うか
秋の声よく聞こ。翁の袖よもあうてぬ。おぞのちほ。うはは

いろごれとちり女ノヘ

アマメウタワリ。男をうとあくねやがな。あまれりあく

(廿六) 古今 菅。男。えまくち。ちる女と。えざめにまくと。使うけのまく

ちやうど。袖ふみかみのさく。ぐれりうと。じとひくと。ばくと
廿七) 古今 芥。むし。男。女のむふ。一衣いまと。よもいと。どかよられ。安れ。す
あく。かぶぬき。とばくす。と。まみのう。あふたくす。と。ばくす
と。よしと。ごうりけ。おとと。アラキと
みすらに。我やまんか。ぐう(あ)の黒と。と。まみの
廿八) 古今 芥。ひし。いろごのと。ちりける。女。あくいみ。それを
なぞと。あく。かく。あく。あく。あく。あく。と。しま。ハト。あ
廿九) 古今 菅。春。まの女。ほなん。と。み。が。か。よ。あ。づ。く。れ。ア。レ。よ
た。よ。あ。よ。う。き。く。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。

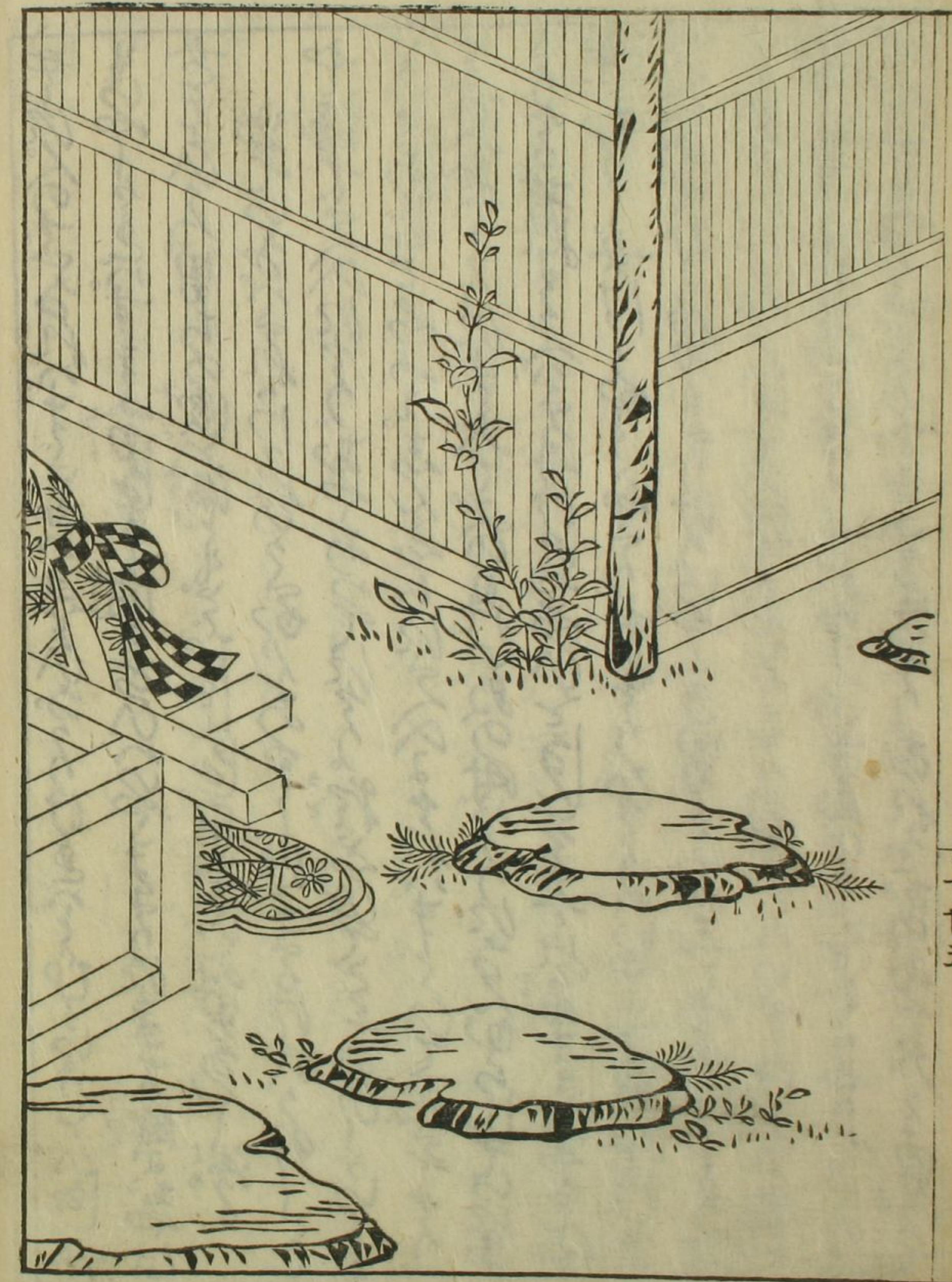
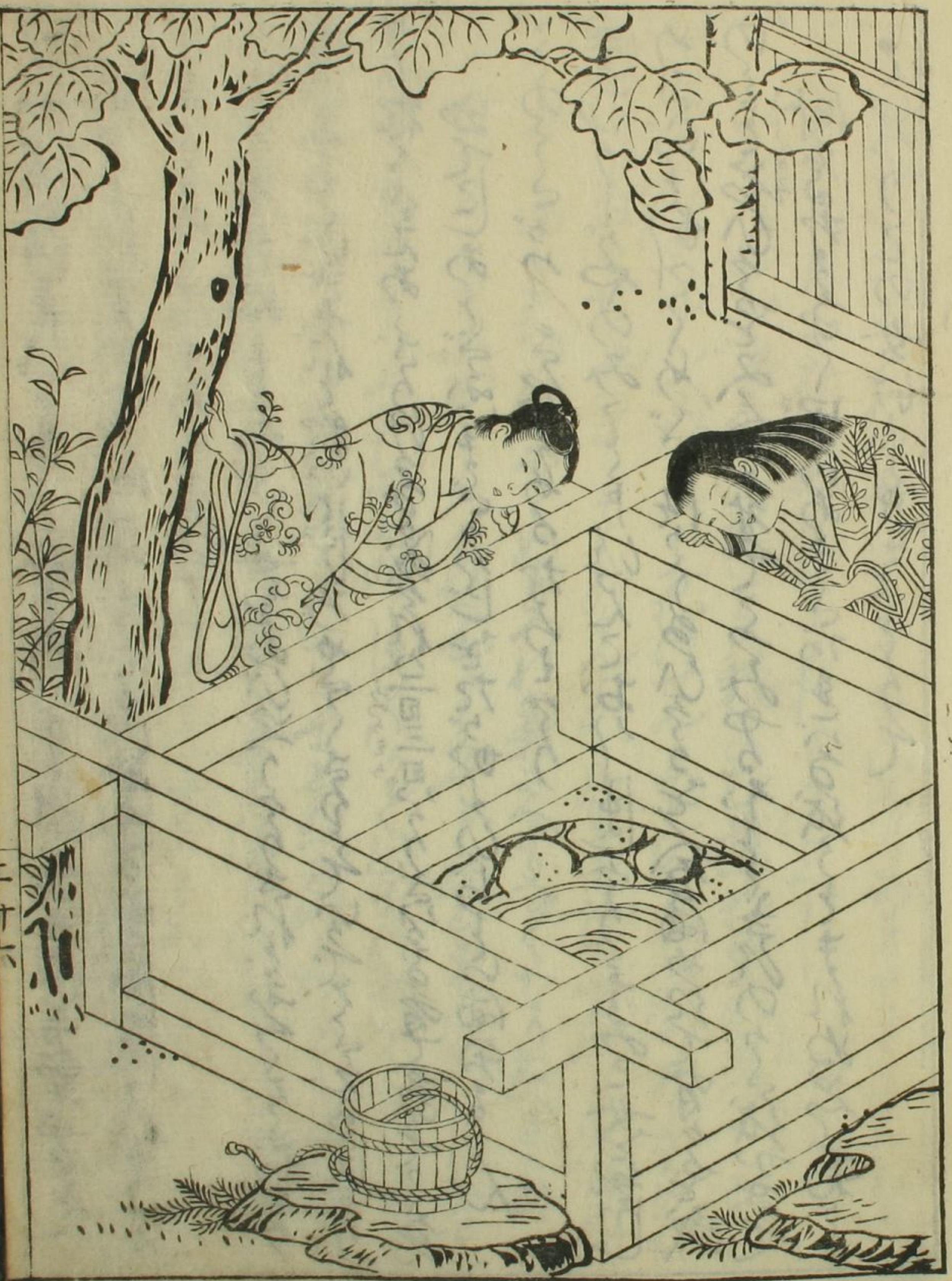
三 ひく。やとよもうなりる。女すりよ
 あきとみのだけりすをほきのたゞみん
 世一 者。えのりく。あるごどらのほやのすをほくま。ほ
 のあくよすひき。やあ繁よがんさうとよ。おとこ
 はまかくをひくすれまきがくすれおとくする
 も。ゆきをかむ女をあつたり
 世二 ひく。ねいひきゑ女よ。年。びうあつて
 いふのあいなをまくらむりと今をすりともうか
 と。つりうれど。ゆもるうもやまくらん
 世三 者。れそこは乃國じづのわうにゆひき。女。せうび
 いきてひよまくとおりへふあきあれば。やとこ
 万葉 あ。すみうるあゆあすにあよかせわひすすね
 く。こりはよあすをひざとみみまきばしてあくべき

わあく。乃あく。ハ。ド。やあ。や
 世四 ひく。れそとはとかくけしのりく。
 し。ぐえよ。もむ。もゆ。ほ。う。れ。て。ふ。ひ。く。よ。あ。く。く。あ
 か。り。あ。く。て。り。く。あ。な。く。く。一
 世五 ひく。ら。あ。む。う。で。さ。く。ア。ル。く。の。ゆ。く
 み。の。を。あ。む。と。と。う。て。ひ。す。ぎ。だ。く。め。あ。ら。む。あ。ん。と。と。さ
 世六 者。づ。れ。わ。う。あ。や。う。と。と。ひ。ぎ。く。け。ふ。女。の。く。く
 万葉 着。せ。ぞ。み。ア。る。ま。ぞ。と。と。あ。や。く。く。と。と。我。や。か。く。に
 ひ。く。男。づ。れ。わ。う。あ。や。う。と。と。ひ。ぎ。く。け。ふ。女。の。く。く
 く。く。か。り。し。と。ひ。ひ。ひ。ひ。成。株。て。あ。ひ。も。ま。で。は。く。と。と。さ。く
 世七 者。れ。の。あ。く。き。が。く。ひ。き。ふ。お。ま。お。そ。か。か。ま。ま。強。て。あ。け
 ふ。そ。う。と。ひ。ひ。ひ。め。せ。の。や。せ。人。は。れ。を。あ。ひ。と。と。年

(四九)

うそで世の人に何をうそつてひどい口と
昔。お院のみどり。帝あり。かくして。モアド。とめ。さき
じことひづきそうけ。そみこくせ結ひて。かくすの表。ちの
とまつがる男。はなうアソビと。女車にあひひてゆく。
ひとひらうそ。まばら。うかうそ。やあべうけ。向。あめ下のえ
ふみ。源の川と。かねおもひ。車と女車と。とようさん。と
うきあゆめ。向。かね。紫と。女。の車に。とようけ。車がくし
じの天と。あらん。と。り。けらうそ。と。の。あら男。はく
と。の。す。が。ま。う。ぬ。ぎ。か。ふ。り。け。り。き。く。と。な。く。ま。と。め
と。わ。れ。う。と。ぞ。女。ゆ。く。の。せ。ら。せ。ゆ。ね。と。も。我。は。あ。く。す。ね
と。の。下。せ。ま。ぬ。の。か。そ。ハ。れ。ぞ。ま。く。る。う。き。が。お。ぢ。だ。こ。れ。下。
(四九)若。つき。男。け。あ。う。あ。ぬ。女。を。と。ひ。う。ほ。り。す。ち。や。え。そ
そひ。ひ。そ。は。く。と。じ。女。を。や。く。と。ひ。や。ん。は。こ。そ。く。ま。く。ま。い

やぶ人の。お。わ。れ。ば。ま。ご。ん。か。き。ひ。か。う。け。く。ば。と。じ。ま。き。と。ひ。か。女
も。お。う。き。ば。す。ま。か。む。う。圓。ま。か。く。ぐ。や。ま。く。り。に。ま。う。房。よ。あ
女。と。ひ。く。男。ち。の。波。と。流。と。も。ど。じ。ほ。き。く。の。男。の。く。游。
先。ひ。が。ば。れ。わ。れ。の。う。あ。ん。あ。ま。う。に。ま。う。け。く。う。行。と
や。往。で。く。入。に。く。あ。あ。つ。て。に。く。た。と。ひ。そ。そ。ひ。く。が。ひ。と。
じ。も。あ。じ。と。そ。く。あ。ん。あ。ら。に。く。く。よ。され。ば。せ。じ。ひ。て。游。そ。く。
ま。の。お。ぞ。く。見。と。入。て。と。の。日。お。の。の。は。ば。う。つ。う。ん。が。う。じ。て。お
う。
(四九)む。し。女。は。く。か。く。か。う。有。き。う。ひ。く。く。ゆ。き。男。ほ。じ。き
く。は。あ。て。な。う。房。り。う。け。く。ゆ。き。男。け。く。あ。と。す。の。ほ。じ。り。に
う。の。ま。わ。と。あ。ひ。と。ま。ば。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。



アシムジカツハモバジトキヨウナリカツハモバジトキヨウナリカツハモバジト

ヒヨクルのシテヒキスルヒメモヒタヒテ聖カツカツアモソフハダラヒ

ムカツのアラロウジ

四
置 者男さぬとある。女をあひつてきりされどかくもまうきう
け、あもひきされどれいじじろやく。さるそいきだくえふほう
う。ねええあさうけるが成されば、言二日、ぐうさうすと多めでくえ
先にしわどふほほまうじとたががひじらとひやうん

シのくううきりよめりたうとく

四
置 ムカツ。やのみへとトシフとおハはまうもかニ女とがじ
めくづかくさじきをまきひくと、今あめにて有をと。我
のシトスヒトス人やまみてあみや。やくまのうづ城がきそ
はるかまく里のあまくわきがうがうとまれぬやくあう
とづり。この女けりきととく

タのシテヒキスルヒメモヒタヒテ聖カツカツアモソフハダラヒ

トキハス月よだんわうきう。わとこうへ

シカツアヒキモテのぬきハ松のむれすむれすむれ

置 者あざくゆくよじまくすむじけせんとてよびてうとくおもひられ。

ホドシハ盆をせて女のまごとがんとて。母の後。當庭のゆく

かくゆく未だわかとぬきされば我そものくたうぬ(きうぬ)

けす。あらうかふおううれぐふとぞうて。よぬと。もにあらひして

置 者男。あさうくのむすめは、ほくはうじ當房にあひととひう。

おもひのめくやまく。わやくにうて、あらげきよ。がくそとひり

ひりどもややまとくははうけもば。ほくはうけもば。まよ

あもひきうて。あまきてやほき風吹く。まく充き。じ男みち

行葉をのこすていねく。あき風すとひにゆあこせ

な隠

くもぐれの日の日くじかむがうのまくかねぞおき
○四六 者。男。いとくわきを育む。かみくわきを育む。人
のまくじかけ。と。あひとどひて。われよそ。月りてを
さむよ。あひとくわきを育む。せで。月のくよけ。月と
やああひよそ。と。わきを育む。世中の人の心
がうれば。わきを育む。あられとくわれば。薄くわ
やうともやかとすくにすくに。と。わきを育む。あ
○四七 む。男。わきを育む。と。と。女。育む。それ。どじやと
と。あこなうと。きて。はれうきのく。あくしきつくる
を。あくねみの。と。あまに。めめられ。あり。どえあそ。あまうけ
くわくねみと。あまうけ。あくねみと。あくねみと。
○四八 者。男。育む。ものなかせんと。人を育む。こさけ。バ
を。今。ゆす。あくねみと。あくねみと。あくねみと。

